ようこそ　歴史と自然の街　保土ケ谷へ。

歴史の香りと美しい自然の8コース、今日はどちらのコースを散策しますか。

8つのコースは、保土ケ谷ガイドボランティアの会の方々の協力により策定いたしました。あくまで保土ケ谷区を身近に感じていただくため、史跡や寺社、公園などをポイントに紹介した散策コースです。コースの途中で見つけた素敵な発見をあなたのコースに加えて、自分探しの“小さな旅”に出かけてみませんか。

もくじ

■コース1
旧東海道、保土ケ谷宿を巡る　Aコース …… P 3～ 8

■コース2
旧東海道、保土ケ谷宿を巡る　Bコース …… P 9～14

■コース3
森と田園と眺望を楽しむコース…… P15～18

■コース4
水道坂から陣ケ下渓谷を抜け、自然と歴史を探るコース …… P19～22

■コース5
仏向の水辺から今井の里へのコース…… P23～26

■コース6
鎌倉古道、国大、常盤公園、和田地蔵を巡るコース…… P27～30

■コース7
保土ケ谷公園から児童遊園地・英連邦戦死者墓地へのコース　P31～34

■コース8
国道16号に沿って、八王子往還を巡るコース …… P35～39

■ふるさとの名木古木…… P40

■散策ガイド掲載　区内寺社一覧 …… P41～42

コースを廻るときのマナーや注意

◆自然に咲いている草花や木は、季節に応じて私たちに幸せな香りや色彩を楽しませてくれます。むやみに取るのはやめましょう。

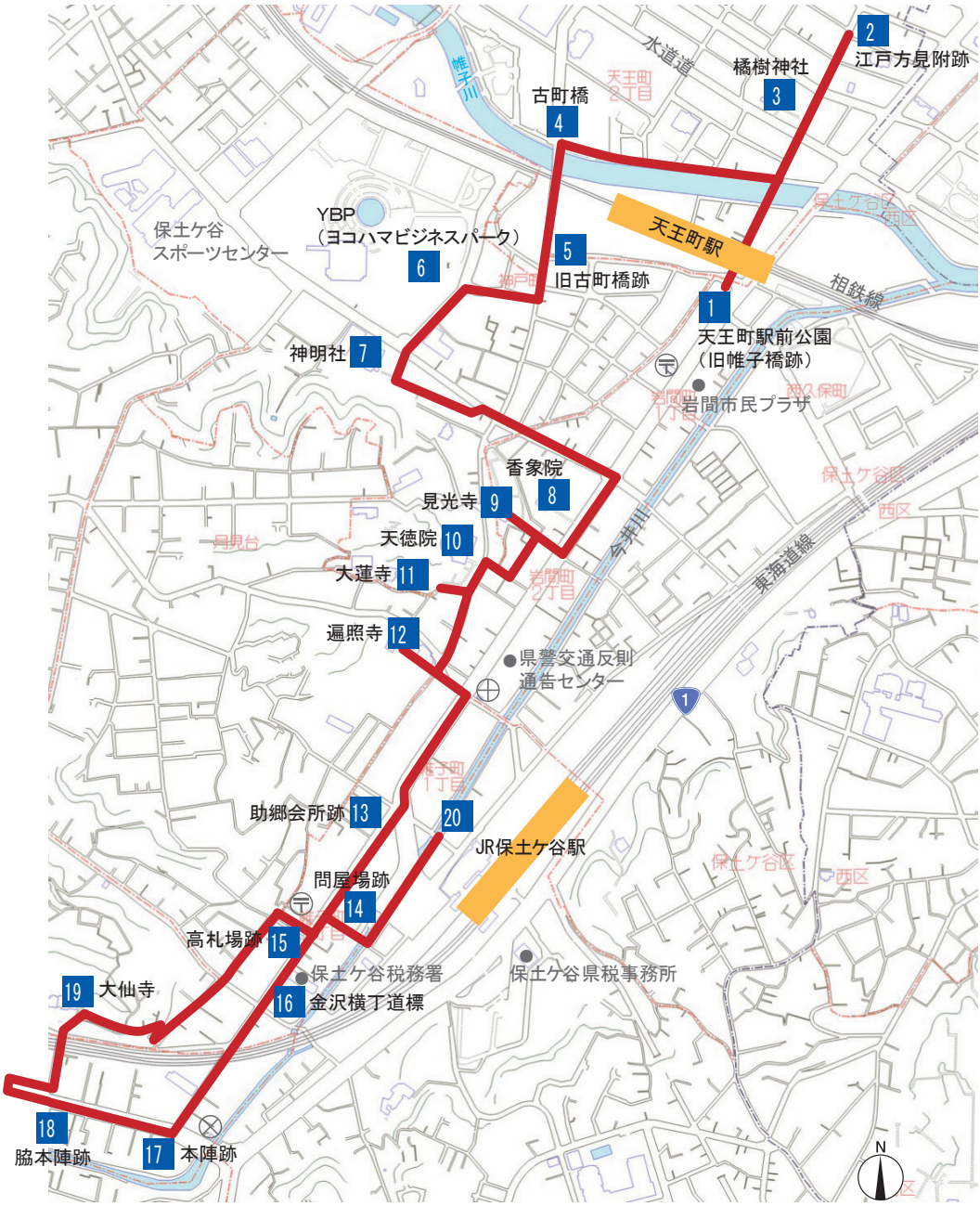
◆狭い道や歩道を歩くときは、他人の迷惑にならないよう、一列になって歩きましょう。

◆お寺や神社では法事など様々な行事を行っています。大声を出したり、走り回ったりしないようお互いに注意しあいましょう。また、寺社などにグループで行くときは事前にお断りすることも必要でしょう。

＊コース紹介ページの マークはトイレ、 マークは指定・登録文化財です。

＊ マークは市の名木古木です（所在地を公開していない木もあります）。説明は40ページにあります。

「歴史めぐり、旧東海道を歩く」



Z078BJ第041号

旧東海道、保土ケ谷宿を巡るAコース

コース 1　総距離 / 約 3.6km

1	天王町駅前公園（旧帷子橋跡）	360m
2	江戸方見附跡	130m
3	橘樹神社	380m
4	古町橋	110m
5	旧古町橋跡	160m
6	YBP（ヨコハマビジネスパーク）	60m
7	神明社	270m
8	香象院	70m
9	見光寺	100m
10	天徳院	80m
11	大蓮寺	140m
12	遍照寺	320m
13	助郷会所跡	50m
14	問屋場跡	40m
15	高札場跡	100m
16	金沢横丁道標	210m
17	本陣跡	140m
18	脇本陣跡	280m
19	大仙寺	640m
20	JR 保土ケ谷駅	

天王町駅前公園（旧帷子橋跡）

新町橋とも呼ばれた帷子橋は、保土ケ谷宿の東の入り口、東海道が帷子川を渡る地点に架けられていた橋で、橋の長さは 15 間（約 27m）、幅は 3 間（約 5.4m）という大きなものでした。当時、東海道には大きな橋が少なかったため、帷子橋は保土ケ谷宿を代表する風景の一つとなり、北斎や広重など、浮世絵の画材として数多く描かれています。特に有名なのは、初代広重の天保 4 年（1833）に東海道五十三次シリーズとして描かれたものです。

天王町駅の南側を流れていた当時の帷子川は氾濫が激しいため、昭和 40 年頃埋め立てられて川の流れも変わり、その跡は帷子公園、天王町駅前公園となりました。天王町駅前公園にはモニュメントが建てられ、かつての姿を思い起こさせてくれます。

江戸方見附跡

「見附」は本来、城のいちばん外側にあった番人のいる城門または警備・見張りの意味がありましたが、のちには形式的になり、単なる宿場の入口、玄関という意味で使われるようになりました。

旧東海道各宿では、江戸側の出入口にあるものを「江戸方見附」、京（上方）側にあるものを「上方見附」と呼んでいました。石垣に土盛をした上に、竹矢来が設けてあった構造から「土居」とも呼ばれています。

ここ江戸方見附から外川神社近くの上方見附まで 19 町（約 2km）が「宿内」と呼ばれ、大名行列等が来ると、宿役人等は見附まで出迎え、行列は威儀を正して進みました。

橘樹神社

鎌倉時代初期の文治 2 年（1186）源頼朝の天下平定を祝い、また、厄除歳寿・子孫繁栄を祈願して京都祇園社（現在の八坂神社）の分霊を勧請して創建したと伝えられています。古くは祇園社と称し、江戸時代には牛頭天王社、明治初年に橘樹社と改称され、大正 10 年（1921）に現在の橘樹神社となりました。

当初は旧道（古東海道）の古町通りにありましたが、新道（旧東海道）ができたのち、万治 3 年（1660）頃に現在地に遷座したといわれています。

本殿裏手には神田不動尊と横浜最古といわれる寛文 9 年（1669）記銘の青面金剛庚申塔があります。その他、天和 2 年（1682）、明和元年（1764）の 2 基の庚申塔もあります。

旧古町橋跡

この場所には江戸時代初期の東海道（古東海道）が帷子川をわたる「古町橋」（帷子橋）がありました。慶安年間（1648 ～ 52）の新道の開通にともなって架けられた旧帷子橋は、これに対応して、「新町橋」と呼ばれるようになりました。また、かねてから暴れ川として氾濫を繰り返していた帷子川の改修が昭和 38 年（1963）に決定され、帷子川の流路は北側に変更されました。それにともない、現在の古町橋は昭和 41 年（1966）に、ここから約 120m 北に架設されています。

YBP（横浜ビジネスパーク）

この一帯は大日本麦酒、日本硝子の工場跡地です。昭和の初め頃、日本硝子の工場は国内最大規模の製びん工場でした。昭和 60 年（1985）、工場を埼玉県熊谷市へ移転し、跡地は野村不動産によって「横浜ビジネスパーク」として再開発されました。

館内には「絵画のホール」「水のホール」「彫刻のホール」など、訪れる人々にやすらぎを与えてくれる空間があり、また、中心部にはテレビや映

画の撮影の舞台にもしばしばなっている「ベリーニの丘」などがあります。

神明社（しんめいしゃ）

その昔、保土ケ谷の地は榛谷（はんがや）と呼ばれていましたが、保安３年（1122）にこの地を開発した豪族が伊勢神宮の神領地として寄進したことから「榛谷御厨（はんがやみくりや）」と呼ばれるようになりました。この御厨から毎年白布三十疋（60 反）が伊勢神宮に献上されたといわれています。

神明社は、天禄元年（970）の創建と伝えられ、三度遷座の後、嘉禄元年（1225）現在の神戸の地に宮造りを起こし、榛谷御厨八郷（現在の保土ケ谷区と旭区の全域、及び周辺区の一部）の総鎮守として広大な社領が与えられ、宮司以下数十人が仕え、隆盛を極めたといわれています。その後、戦乱の時代に一時衰退しましたが、天正 18 年（1590）徳川家康入国のとき、社殿の造営が行われ、４石１斗の御朱印地が安堵されました。また、元和５年（1619）宮居を神戸山山頂から現在の場所に遷座し、社殿の造営、境内の整備が行われました。

香象院（こうぞういん）

創建は不詳。

江戸時代末期、保土ケ谷では最も大きな寺子屋があり、明治６年（1873）に保土ケ谷小学校の分校となりました。墓地には寺子屋の先生であった安達清墨庵先生と保土ケ谷の郷土史研究に尽力された、磯貝正、磯貝長吉両先生の墓があります。また、昭和８年（1933）に磯貝正氏によって発見された紺紙金泥（こんしきんでい）の古写経があります。大般若経第五百六拾巻で、鎌倉時代初期のものとされています。

見光寺（けんこうじ）

創建は寛永６年（1629）。

開基は保土ケ谷の住人で熱心な浄土宗の信者、茂平夫妻です。境内の墓地には夫妻の墓があります。また、保土ケ谷出身のコラムニスト「青木雨彦」の句碑が本堂の前に建てられています。

天徳院（てんとくいん）

創建は天正元年（1573）。

本尊は運慶作といわれている地蔵菩薩坐像です。本院は保土ケ谷の豪族小野筑後守が華林栄（かりんえいこう）公和尚に帰依して建立したと伝えられています。

開基小野筑後守の子息、2代目の墓があります。なお、明治維新前は神明社の別当を兼務し、幕末文久年間（1861～64）には、神明社の前にあった満願寺と薬師堂を合併しました。

大蓮寺（だいれんじ）

創建は寛永2年（1625）。

日蓮上人が21歳のとき、遊学の途中、帷子の里の一民家に泊まり、子どもたちの玩具の中に壊れた釈迦牟尼像を発見し、過ちを諭しました。家主は早速自宅を法華堂に改修し、その仏像を安置して朝夕勤行（ごんぎょう）に勤めました。その法華堂が寺のはじまりです。山門の下に「日蓮大聖人帷子の里御霊跡」の記念碑が建てられています。

また、本堂前には徳川家康の側室「おまんの方」お手植えといわれる、ざくろの木（2代目）があります。

なお、山門の脇の小道は、桜ケ丘を通って元町橋へ抜ける「古東海道」とも言われています。

遍照寺（へんじょうじ）

創建は伝・貞観（じょうがん）18年（876）。

本尊の薬師如来坐像は、京都仁和寺喜多院の本尊と同木、同作の尊像と伝えられており、仏向村にあったと言われる浅間宝寺の本尊でした。永録・天正年間（1558～92）の兵乱の折、寺が焼き討ちにあった際、本尊を帷子川に流しました。それを老僧が拾い上げ、寺の本尊としたと伝えられています。

なお、この寺には、岡野新田の開発に尽力された岡野家の墓があります。

助郷会所跡（すけごうかいしょあと）

宿場で賄いきれない人馬を、指定された周辺の村々から動員することを助郷、指定された村を助郷村といいます。助郷は東海道が整備されてから交通量が増加してきた17世紀半ば頃に次第に制度化されていきました。享保10年（1725）に定められ

た保土ケ谷宿の助郷村はおよそ 40 か村、現在の保土ケ谷区内のみならず、旭・西・中・南・港南・磯子・戸塚等の各区域に及びました。こうした助郷村は助郷動員の指示に対応するため、問屋場の近くに助郷会所という事務所を設けていました。

問屋場跡

宿場の公的な業務のうち、幕府の公用旅行者や大名などの荷物運搬（人馬継立）、幕府公用の書状等の通信（継飛脚）、大名行列の宿泊の手配などを担っていたのが問屋場で、宿場の中で最も重要な施設のひとつです。宿場ではこの業務をつとめるのに十分な数の人足と馬を用意するように定められていました。問屋場には問屋を筆頭に、年寄、帳付、馬指、人足指などの宿役人が詰めていました。

高札場跡

宿場の高札場には一般の法令等に関するものだけでなく、隣の宿場までの荷物の運搬料金や旅籠屋の宿泊料等を細かく記載した高札も掲出されました。

宝暦 13 年（1763）に普請された保土ケ谷宿の高札場は幅 2 間半（約 4.5m）高さ 1 丈（約 3m）の規模でした。

金沢横丁道標

旧東海道の東側、通称金沢横丁に 4 基の道標が並んでいます。向かって右から 1 番目は、天明 3 年（1783）の建立で、「円海山之道」「かなさわ・かまくらへ通りぬけ」と刻まれています。2 番目は天和 2 年（1682）の建立で、正面に「かなさわ・かまくら道」、左面に「弘明寺道」と刻まれています。3 番目は文化 11 年（1814）の建立で、左面には「梅の名所杉田への道」と刻まれ、正面には「程ケ谷の枝道曲れ梅の花」という其爪の句が刻まれています。4 番目は弘化 2 年（1845）の建立で、「ほうそう（疱瘡）神富岡の芋大明神への道」と刻まれています。金沢道には円海山、杉田、富岡など信仰や観光の地があり、4 基の道標はこれらの場所へ旅人を導いたのです。

大仙寺

創建は平安中期（970 年頃）と伝えられています。

本陣を勤めた軽部家の菩提寺で、保土ケ谷区内で最も古い寺のひとつです。

東海道を行き通う旅人の信仰も厚く、道中安全の祈願で賑わったと言われています。東海道線の踏切を渡り、国道 1 号（旧東海道）まで参道が続いていました。

本堂裏手の墓地に米俵の形をした一風変わった墓石があります。新玉屋という米屋の保土ケ谷宿一番の力持ちで、働き者と評判の「おでん」という女中の墓です。米俵 3 俵（約 180kg）を軽々と持ち上げ、大の男を驚かせたと伝えられています。

※本陣跡、脇本陣跡はコース 2 で紹介しています。

「歴史めぐり、旧東海道を歩く」

コース 2

総距離 / 約 5. 9km

1	ＪＲ保土ケ谷駅	
		300m
2	助郷会所跡	
		50m
3	問屋場跡	
		40m
4	高札場跡	
		100m
5	金沢横丁道標	
		210m
6	本陣跡	
		140m

N

Z078BJ 第 041 号

旧東海道、保土ケ谷宿を巡るBコース

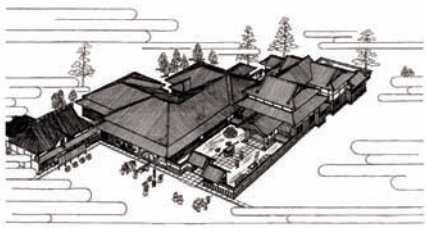
7	脇本陣跡	
		370m
8	上方見附・一里塚跡	
		50m
9	外川神社	
10	保土ケ谷宿松並木	170m
11	出羽三山供養塔	
		480m
12	樹源寺	
		180m
13	旧元町橋跡・帝釈天堂	
		330m

14	元町の石仏・現元町橋	
15	権太坂	1,380m
16	投込み塚の碑	
		330m
17	境木立場跡	
		110m
18	境木地蔵	
		270m
19	萩原代官屋敷・道場跡	
20	焼餅坂	540m
21	品濃一里塚	
		840m
22	ＪＲ東戸塚駅	

本陣跡（ほんじんあと）

慶長6年(1601)正月、東海道に伝馬制度が定められ、徳川家康より「伝馬朱印状」が「ほどがや」あてに出されたことにより、保土ケ谷宿が成立しました。

東海道を往来する幕府の公用役人、大名、勅使、公家および宮門跡などは、宿場に設置された本陣に宿泊しました。保土ケ谷宿の本陣は、小田原北条氏の家臣苅部豊前守康則の子孫である苅部家が代々つとめています。同家は、問屋・名主を兼ねるなど、保土ケ谷宿における最も有力な家で、安政6年(1859)に横浜が開港する際、当時の当主清兵衛悦甫が総年寄に任ぜられ、初期の横浜町政に尽しました。明治3年(1870)10月、本陣は廃止され、姓を『軽部』に改め、現在に至っています。



保土ケ谷本陣復元想像図（金子寿彦氏作成）

脇本陣跡（わきほんじんあと）

本陣が混雑した際、幕府の役人や大名も脇本陣に休息・宿泊しました。保土ケ谷には藤屋・水屋・大金子屋の3軒の脇本陣がありました。そのほかに茶屋本陣が1軒ありました。

上方見附跡（かみがたみつけあと）

保土ケ谷宿の京都(上方)側の出入口となる上方見附は、『保土ケ谷区郷土史』によれば、外川神社（とがわじんじゃ）の前にあったといわれています。見附は、石垣に土盛をし、竹矢来（たけやらい）を組んだ構造で、「土居（どい）」とも呼ばれています。また、この上方見附から江戸方（しゅく）見附までは、家屋敷が街道に沿って建ち並び「宿内（うち）」と呼ばれていました。

一里塚跡（いちりづかあと）

街道の距離の目安として、一里(約3.9km)ごとに設置されたのが一里塚です。一里塚は、街道の両側に土盛した小山を造り、その上に遠くからでも目立つよう榎などの木々が植えられていました。この付近にあった一里塚は、日本橋から8番目のものです。

なお、平成18年12月に松並木とともに復元されました。

外川神社（とがわじんじゃ）

明治2年(1869)保土ケ谷宿の湯殿山講中の先達が、この地に羽黒山麓の「外川仙人大権現」の分霊を祀ったのが始まりです。境内にある道祖神は虫封じ・航海安全にご利益があるとされてきました。

また、境内には、横浜市の名木・古木に指定されているケヤキがあります。

保土ケ谷宿松並木（ほどがやじゅくまつなみき）

保土ケ谷区制80周年記念事業の一環として、保土ケ谷宿に松並木の復元を計画し、平成17年に「東海道保土ケ谷宿松並木プロムナード実行委員会」が組織されました。平成18年12月、市からの支援を受け、国道1号沿いの今井川河川改修工事で生まれた公共空間に黒松32本を植樹し、松並木がよみがえりました。

出羽三山供養塔

出羽三山とは、羽黒山、月山、湯殿山の総称で、西の熊野と並び、古来より山岳信仰の霊山として信仰を集め、庶民は天下泰平、五穀豊穣、無病息災を祈願して参拝しました。この講中を三山講といい、江戸後期に盛んであったといわれています。

三山供養塔は講中の人たちによって建てられたものです。保土ケ谷は三山講が盛んであったようで、区内には５基の供養塔があります。

なお、出羽三山は神仏習合の霊場であったため、明治初期の神仏分離政策により、衰退していきました。

樹源寺

開基は心了院妙秀日正尼、開山は善通院日了上人。

鎌倉時代までは、東方山医王寺と称し真言宗の大きな寺でしたが、その後兵火により、薬師堂だけが残る廃寺となりました。寛永年間（1624～44）初期に保土ケ谷宿の本陣・初代苅部清兵衛の母堂が日蓮宗に帰依し、薬師堂の脇に庵を建て、日蓮宗身延山久遠寺の末寺として創建しました。

明治時代の有名な劇作家・詩人で政治家の山崎紫紅の墓があります。

寺の名は、境内にあった大ケヤキが源です。樹齢 700 年で横浜市の保護木に指定されましたが、昭和 46 年（1971）に枯れてしまいました。

旧 元町橋跡

『保土ケ谷区郷土史』によると、明治 20 年（1887）の東海道線開通以前の今井川はここで街道を横切っていました。

橋は江戸時代の『東海道分間延絵図』にも描かれています。また、かつての字名は、ここから東側を「元保土ケ谷」、西側を「元保土ケ谷 橋向」といいました。

帝釈天堂

お堂の中に「庚申講」や「地神講」の祭事に使われた掛け軸が祀られています。石仏、石塔は多くありますが、掛け軸は珍しく貴重なものです。また、堂外には多くの石仏、石塔が安置されています。

お堂は近隣の住民が、当番制でお守りしています。

権太坂

かつて権太坂は、今よりも勾配がきつく、東海道を江戸から上方へ上る旅人が初めて出会う難所でした。松並木が続き景色も良かったため多くの浮世絵に描かれています。しかし、明治 17 年（1884）の国道 1 号開通や明治 20 年（1887）の東海道線開通により、通行量も減って道幅も狭くなりました。権太坂は、昭和 30 年代に宅地開発が進むまで往時の街道の面影を残していました。

「富嶽三十六景　東海道程ヶ谷」（神奈川県立歴史博物館所蔵）

投込み塚の碑

江戸時代、旅の途中に病気などで亡くなった人や馬を葬った場所を投込み塚といいます。以前、権太坂の途中にありましたが、宅地開発によって取り除かれ、枯骨は戸塚区平戸町の東福寺に改葬され、供養のためにこの碑が建てられました。

境木立場跡

立場は人足や馬子の休息所でしたが、旅人が多くなるにつれて茶屋も営むようになりました。

立場茶屋は宿場間の距離が長い所や山坂の難所などがある場合に置かれたといわれています。保土ケ谷宿と戸塚宿の間には権太坂、焼餅坂、品濃坂などの難所があり、そのため、境木と上柏尾村にそれぞれ立場茶屋がおかれていたといいます。

地蔵堂近くにある若林家が当時の立場茶屋で、ここでは牡丹餅が売られ、境木の名物でした。

なお、境木は、茶屋で休む旅人など当時の賑やかな様子が『江戸名所図会』に描かれています。

境木地蔵

むかし地蔵堂境内にけやきの大木があり、ここが武蔵国と相模国の国境であることから「境木」という地名がつけられたといわれています。

地蔵堂は万治２年（1659）頃の建立といわれています。この地蔵尊は、むかし、鎌倉腰越の海辺に打ち上げられ、土地の漁師の夢枕に立ち、「わしを江戸へ運んでくれたら、この海を守ろう」とのお告げがありました。早速、漁師は地蔵を牛車に乗せて江戸に向かいました。ところが、境木まで来て動かなくなったため、村人たちが引き取り、お堂を建てて祀ったところ、村は大変栄えたという伝説があります。

なお、地蔵堂前の広場には、武相国境モニュメントが平成17年に建てられました。

萩原代官屋敷・道場跡

萩原家は旗本八千石杉浦氏の家臣で、代々杉浦氏の領地である平戸村（現・戸塚区平戸）の代官を勤めていました。幕末の当主萩原太郎行篤は直心影流免許皆伝の剣術家として近郷に知られ、門人が二百数十名いたといわれています。諸国から剣術の教えを乞う剣術家も多く、安政５年（1858）８月には、のちに新撰組隊長となった若き日の近藤勇も訪れたという文書が残っているそうです。

品濃一里塚

日本橋から９番目の一里塚です。

ほぼ完全な形で残っている一里塚は、県内ではここだけです。

東海道（国道１号）沿いの古刹・古社

安楽寺（あんらくじ）

安楽寺（高野山真言宗）は、室町時代の末期、天文４年（1535）に弘弁上人よって開山されました。西区赤門町、東福寺の末寺であり、また、新四国東国八十八霊場の第 30 番札所でもあります。

円福寺（えんぷくじ）

古義真言宗、西区赤門町東福寺の末寺で、羯摩山密蔵院と号し、開山は永享２年（1430）後花園天皇の御代、真源法師と伝えられています。本尊は地蔵菩薩ですが、これにはおもしろい「たけのこ地蔵」という異名があります。

福聚寺（ふくじゅじ）

臨済宗の古刹で、建武２年（1335）南北朝時代に創建され、本堂はむかし字道上辺りにありましたが、後年現在地に移築されたといいます。境内には、小金井小次郎の傘下にあって、明治から大正・昭和初期までよく知られた保土ケ谷の名物男、侠客半鐘兼こと堀井氏の墓があります。

久保町杉山社（くぼちょうすぎやましゃ）

岩間町（下町）、久保町の鎮守。祭神は五十猛命（いそたけるのみこと）。延喜式内社「杉山神社」よりの勧請とも「美須神社」を改称したともいわれています。境内には伊勢大神宮の刻銘の大燈籠があり怪力燈籠の伝承をもっています。また、戦時中空襲を避けた近隣の一部石像や石塔が本殿脇に安置されています。

八幡社（はちまんしゃ）

社伝では文保２年（1318）の創建。祭神は応神天皇。岩井町・瀬戸ケ谷町の鎮守。境内には明治の頃各地の信仰をあつめた於鍋稲荷と菊水観音を合わせ祀ってあります。この菊水観音より湧く泉は病気平癒や眼病に効能があるとされ、今日でもこれを求める参詣者が多く訪れます。

＊助郷会所跡、問屋場跡、高札場跡、金沢横丁道標はコース１で紹介しています。

Z078BJ 第 041 号

「富士山を見ながら、区境の丘を歩く」

森と田園と眺望を楽しむコース

コース 3　総距離 / 約 6.8km

1	相鉄西谷駅	320m
2	梅ノ木公園	180m
3	富士山神社	910m
4	松野稲荷	200m
5	上菅田町の石仏・石塔	160m
6	福生寺	190m
7	八幡神社	530m
8	拾参塚	300m
9	上菅田町（バス停）	1,100m
10	辻山の庚申塔	740m
11	笹山貝塚跡	
12	笹山小学校コミュニティハウス	310m
13	辻の馬頭観音	600m
14	新井町公園	410m
15	猪子山（眺望良好地点）	860m
16	相鉄西谷駅	

富士山神社

現在の富士山神社は昭和 36 年（1961）9 月に造営されました。それ以前は上星川町の杉山社が氏神でした。西谷の住民は、祭礼のたびに東川島町を通過して参詣しなければならず、大変不便な状態におかれていました。そのため、上星川杉山社の氏子総代と西谷町の総代が話し合い、杉山社の分霊を勧請し、この富士山の地に神社が建立されました。

神社の祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）、五十猛命（いそたけるのみこと）、木花咲爺也姫命（このはなさくやひめのみこと）の三神です。

また、神社は海抜 50m に位置しているため、晴れた日には遠くに富士山を眺めることができます。

上菅田町の石仏・石塔

区内でも、これだけ多くの庚申塔や石仏などが集中して存在するのも珍しく、寺下橋バス停近くにある地神塔は文政 3 年（1820）庚辰（かのえたつ）8 月、上菅田村講中が建てたものです。

福生寺

『新編武蔵風土記稿』によれば、1600 年代初めに久良岐郡太田村東福寺（現西区）の末寺であることが記録されています。

本尊は薬師如来で、元は上菅田の中央にありましたが、天災にあい現在の地に移築されました。

寅年には「武南十二薬師霊場第 4 番札所」の一寺として開帳され、多くの人が参拝しています。

八幡神社

祭神は応神天皇といわれています。創建年代は不詳ですが、文化 13 年（1816）に再建されたといわれています。しかし、昭和 55 年（1980）2 月、不審火により焼失したため、氏子の総意によって、昭和 57 年（1982）、社殿を築造し、翌年、大分県の宇佐神宮より再度分霊を勧請しました。

石造鳥居と石盥（いしだらい）は享和３年（1803）に氏子より奉納されたものです。

拾参塚（じゅうさんづか）

拾参塚は、中世の民間信仰の跡で、丘陵、村境、峠などに見られる遺跡（塚）です。区内では珍しい遺跡です。

辻山の庚申塔（つじやま　こうしんとう）

区境の緑区鴨居町に青面金剛像があります。左は明和元年（1764）、右は元文２年（1737）で上部に日月、下部に鶏、足下に邪鬼を踏んでいて、三猿もなかなか良いものです。講中８名の名があります。

近年、地元の人の好意で台・屋根・柱などが取り替えられ、案内板設置の時には、竹垣の材料なども提供されたそうです。

笹山貝塚跡（ささやまかいづかあと）

区域の代表的な貝塚である上菅田町笹山貝塚は、鴨居町から南に入り込む鶴見川と、西谷町から北にのびる帷子川とが近接する付近の台地上に位置しています。過去に発掘調査が行われていないため、詳しい内容は不明ですが、採集した土器などから縄文時代前期の集落跡であると思われます。当時はこの辺りまで海がきていました。

新井町公園（あらいちょうこうえん）

平成８年に開園した近隣公園です。

かつての谷戸の風景を残した公園で、せせらぎやトンボ池、孟宗竹の林や雑木林、ツツジやお茶の木等に囲まれています。

近隣の人でつくられた「新井町公園を愛する会」によって、見学にきた児童・生徒への説明や公園の掃除が、ボランティアで行われています。

猪子山（いのこやま）（眺望良好地点（ちょうぼうりょうこうもてん））

西に富士山・丹沢の山並み、東にはランドマークタワー等の MM21 地区が望め、南には広々とした畑が続いています。360 度の風景が楽しめ、このコース一番の眺望良好地点です。

この辺り一帯は、通称「猪子山」といい、新井町、川島町には、猪子山にまつわる『真二つにされた大蛇』の民話が伝わっています。

「水道の歴史と横浜唯一の渓谷を訪ねて」

Z078BJ 第 041 号

水道坂から陣ケ下渓谷を抜け、自然と歴史を探るコース

コース 4

総距離 / 約 4.6km

1	相鉄上星川駅	150m
2	蔵王高根神社・薬師堂	250m
3	稲荷神社	
4	水道坂	180m
5	川島町旧配水計量室上屋	390m
6	横浜水道記念館・水道技術資料館	560m
7	水道みち向台公園	410m
8	蛇骨龍王弁財尊天	430m
9	みずのさかみち	630m
10	陣ケ下渓谷	400m
11	川島町　杉山神社	540m
12	随流院	260m
13	稲荷橋	300m
14	両郡橋	130m
15	相鉄上星川駅	

蔵王高根神社・薬師堂

創建年月は不詳ですが、古くから坂本村に蔵王社と高根社の2社があり、村民に崇敬されていました。明治43年(1910)、政府の「一村一社」の政策により、2社とも矢崎村(明治22年、仏向村と坂本村が合併)の杉山社に合祀されました。しかし、その後も村民は社殿を残して遥拝し、昭和24年(1949)には、氏子の強い要望により、再び御神体を移して「蔵王高根神社」として独立したという歴史を持っています。

神社に上がる階段の下には明治39年(1906)建立の馬頭観世音の石塔があり、隣の薬師堂敷地内には、庚申塔(元禄9年・1696)、地神塔(文化11年・1814)、念仏塔とともに、めずらしい指さし道標もあります。

蔵王高根神社

薬師堂

川島町旧配水計量室上屋

この計量室は大正3年(1914)、横浜水道第2次拡張工事の時に、関内、山手、本牧方面に給水する配水量を計る装置を設置するために建設されました。外装には横黒・鼻黒煉瓦を用い、浄水場内に残る6基の整水室上屋の建造物と共に国の登録文化財に指定されています。

横浜水道記念館・水道技術資料館

この記念館は、昭和62年(1987)横浜水道創設百周年を記念して水道技術資料館とあわせて開設し、一般公開されています。水道記念館では水道の歴史や仕組みを楽しく分かり易く解説し、水道技術資料館では水道技術の移り変わりを展示しています。

建物は、西谷浄水場旧管理棟を記念館に、工事部事務所を資料館に利用したものです。

水道記念館は、横浜市のほぼ中心地の標高72mの高台に位置し、横浜ベイブリッジ、ランドマークタワーや、晴れた日には新宿副都心の高層ビル群も望め、遠くは丹沢の山並みの先に富士山も眺めることができる見晴らしの良い展望室が自慢の一つです。また、春先には桜が大変美しく、市民と水道とのふれあいの場として親しまれています。

水道みち向台公園

この辺り一帯は古くから和田分と字名で言われている所です。鎌倉時代に源頼朝の家臣である和田義盛が狩りのため陣を張ったところで、陣の下にある渓谷に「陣ケ下渓谷」の名がついたといわれています。

蛇骨龍王弁財尊天
（別称「おしゃもじさま」）

かわしまホーム敷地内にあるこの小さな祠は「おしゃもじさま」と言われ、地元では子育ての神様として子どもが産まれるとしゃもじを供えてその子の成長を祈願するものです。現在でも祠の前にしゃもじが供えられているのが見られます。

「おしゃもじさま」は正式には「社宮司社」といい、音が「しゃもじ」に似ているので転じたといわれています。社宮司社は信濃国の諏訪大社の信仰圏内に多くあり、武蔵、相模の両国にも40社近く分布されています。別名蛇骨神社、蛇苦止明神などとも呼ばれ、蛇にまつわる伝説が多くあります。ここ川島の蛇骨龍王弁財尊天には『真二つにされた大蛇』という民話が残っています。

みずのさかみち

この坂の名前は、坂の地中に鶴ケ峰浄水場から西谷浄水場へ繋がる水道管が埋設されていることからつけられたものです。この坂道は平成2年に「ふるさと坂道三十選」に選ばれ「手作り郷土賞」を受賞しました。隣接する陣ケ下渓谷公園の入口にもなっていて、ゆったりとした雰囲気は歩く楽しみを一層高めてくれています。

陣ケ下渓谷（じんがしたけいこく）

ここは保土ケ谷の秘境、横浜で唯一の渓谷です。総面積15ha（約45,000坪）の広大な地域で、スギ、ヒノキの暗い林の下はシダ類の宝庫です。奥の尾根筋の明るい雑木林には貴重なめずらしい植物も多く見られます。

この地域は主に陣ケ下渓谷公園（風致公園）として整備されています。初夏には、蛍が飛び交う自然豊かなところです。

川島町（かわしまちょう）　杉山神社（すぎやまじんじゃ）

創建年代は不詳ですが、言い伝えによると天文年代（1532～55）北条氏康が上杉朝定との戦いのとき、この地に陣を張った夜、日本武尊（やまとたけるのみこと）の東征の夢を見て、その加護により勝利は必定であると、ここに祠を建てて武運長久を祈ったといわれています。また、氏康は領民をいたわる気持ちが強く、戦乱久しく住民の困窮を救うために植林を奨励し、植林の祖神である五十猛命（いそたけるのみこと）を合祀したと伝えられています。

明治6年（1873）村社に指定されました。現社殿は昭和30年（1955）5月の造営です。

随流院（ずいりゅういん）

川島山随流院は禅宗の中の曹洞宗に属し、本尊は聖観世音菩薩です。嘉吉（かきつ）元年（1441）に臨済宗建長寺派の利庵栄叟和尚が開いた寺であり、最初は「観音寺」という名の一小庵でした。その後約20代続きましたが、途中建物が火災に遭い、ほとんど廃絶したのを、小机雲松院の第八世栄岩宗茂大和尚の尽力により曹洞宗に改められ、境内地を今の場所に変えて堂宇を建立し、「随流院」という名に改めました。そのため、宗茂大和尚を御開山と仰いでいます。

慶安元年（1648）には、徳川家三代将軍家光公より観音堂領3石余の朱印地を下付されました。現在も、当時の朱印証箱、朱印札及び住職が江戸城への年賀登城の際に使用した駕籠が本堂に保管されています。

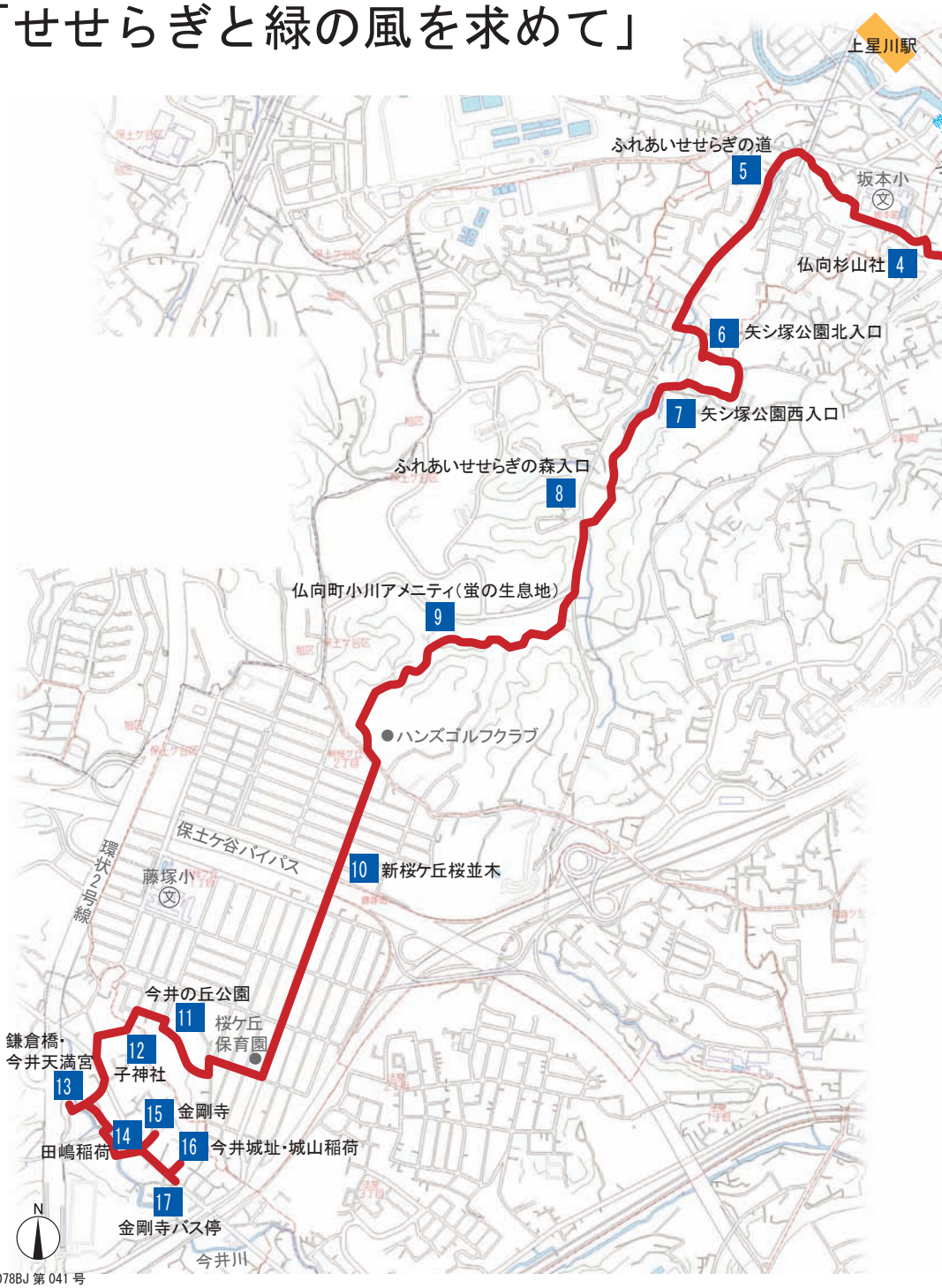
また、宝暦6年（1756）、旧小机領三十三観音霊場の第6番札所になりました。

なお、川島小学校（川島学舎）発祥の地です。

両郡橋（りょうぐんばし）

明治20年（1887）わが国最初の近代水道の創設に伴い、津久井郡三井村から横浜村まで水道管が敷設されました。その後、この水道管に沿って人馬の往来ができるようになり（現水道道）、この橋もかけられました。橋の名前は、都筑郡上星川村と橘樹郡坂本村との境にあるということで「両郡橋」とつけられました。橋の上流には堰がつくられ、仏向、下星川（現星川）、神戸三村の水田用用水路が掘られ、その近くには水車もあったと伝えられています。

「せせらぎと緑の風を求めて」



Z078BJ 第 041 号

コース 5

総距離 / 約 5.2km

1	相鉄和田町駅	400m
2	仏向町の石塔（仏向 杉山社跡）	130m
3	正福院	220m
4	仏向 杉山社	380m
5	ふれあいせせらぎの道	490m
6	矢シ塚公園　北入口	460m
7	矢シ塚公園　西入口	250m
8	ふれあいせせらぎの森入口	300m
9	仏向町小川アメニティ（蛍の生息地）	710m
10	新桜ケ丘桜並木	900m
11	今井の丘公園	260m
12	子神社	200m
13	鎌倉橋・今井天満宮	150m
14	田嶋稲荷	150m
15	金剛寺	160m
16	今井城址・城山稲荷	60m
17	金剛寺バス停	

＊お帰りは、バス停「金剛寺」から

仏向の水辺から
今井の里へのコース

仏向町の石塔（仏向 杉山社跡）

杉山社は平成５年８月、宮崎跨線橋建設のため、坂本小学校の裏に遷座しました。その際、境内の石灯籠や狛犬などは移されましたが、三つの石塔は神社跡地に残され、保存されています。

(1) 観音庚申塔　寛保２年(1742)11月造立。
　庚申信仰の石仏で舟形をしている。

(2) 斎上地神塔　文化９年（1812)８月造立。
　角塔浮彫形

(3) 出羽三山供養塔　安政２年(1855)８月造立。
　角塔で台石が三重になっていて、上部に梵字が刻まれている。

正福院

むかし、栄叟寺と称し、栄叟梵昌和尚の開山といわれ、永享元年(1429)頃の創建と伝えられています。その後一時廃寺となりましたが、万治年代(1658～61)の頃に小机雲松院の明山宋鑑和尚が中興しました。

尭室春公和尚のとき、小田原北条氏より「仏向山」の号を許されたといわれ、『新編武蔵風土記稿』によると、「出家の身は他に志願なし、唯、常に仏に向かうこそ桑門の本意とするところなれば、寺の山号およびその村里にも『仏向』の二字をもって名付け賜るべしとの願いにより、かく名付けられしとぞ」とあります。

また、参道を入ると、正面に樹齢300年という２本の銀杏の木が高々とそびえています。

仏向 杉山社

創祀年代は不詳。祭神は五十猛命。本地(御神体)は、１尺７寸不動明王立像で村の鬼門除けとして丑寅の方角に祀られ、明治には村社に指定されました。村内の神明社と稲荷社を遷座し境内に祀られています。平成５年、宮崎跨線橋建設のため遷座されましたが引き続き丑寅の方位に鎮座しています。鳥居近くに力石が置いてあります。

矢シ塚公園

仏向の丘にある自然豊かな公園は、その昔、源頼朝が狩りに来て釜壇山から放った矢が地面に刺さり、そこから矢竹が生えてきたとの伝説があり、これが「矢崎村」「矢シ塚」の地名の由来になっています。

仏向町小川アメニティ

日本カーリット工場跡地に広がる山林の一角の谷戸が小川アメニティです。崖に沿って小川が流れ、踏み石が敷かれ、草木が植えられています。初夏には蛍が飛び交う区民の憩いの場となっています。

新桜ケ丘桜並木

新桜ケ丘団地造成時に、南北1kmにわたって続く道路の両側に植えられた桜が、毎年春には見事な花を咲かせ桜のトンネルと化し、区内でも見応えのある桜並木です。

子神社（ねじんじゃ）

創建年代は不詳ですが、今井町のほぼ中央にあり、天和（てんな）3年(1683)12月28日付の社殿再建の棟札があります。文化5年(1808)にも社殿の造営が行われ、文化7年(1810)には石鳥居が建立されるなど神域が整備されました。昭和51年(1976)に伝統的な神社建築に現代の建築様式をとりいれた権現造り風の独特の社殿が完成しました。今井町、新桜ケ丘一帯の氏神として崇敬を集めています。祭神は大国主命（おおくにぬしのみこと）です。

鎌倉橋・今井天満宮（かまくらばし・いまいてんまんぐう）

川島町から旭区市沢町を経て、今井町子神社下の小道を通り、鎌倉橋を渡り、境木町に進み、鎌倉方面に向かう道は「鎌倉古道」といわれています。

今井天満宮は子神社の末社で、祭神は菅原道真公です。江戸時代にはこの地に寺子屋があり、地元の多くの子どもたちが学んだことから、今井村の文化発祥の地ともいわれていました。また、今井小学校誕生の地でもあります。今井小学校は明治13年(1880)3月、市沢小学校より分離してここに開校しました。

田嶋稲荷（たじまいなり）

祭神は「宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）」といい、稲の豊穣を司り、五穀五菜を守る神です。創建は定かではありませんが、おそらく付近一帯に水田が開かれた頃に、田の神、稲作の守護神として祀られたものと思われます。

現在の社殿は昭和60年(1985)に新しく築造され、境内の整備も行われました。今でも崇敬者が多く、毎年数多くの稲荷旗が奉納されています。

金剛寺（こんごうじ）

天正19年(1591)、快儀法印によって開かれた真言宗の寺で、本堂には寺宝の嘉慶2年(1388)の作と云われている地蔵菩薩像が安置されています。江戸時代は今井村の鎮守「子神社」の別当も務めていました。

境内には江戸時代の今井村領主有田氏3代の墓があります。有田氏は家康より今井の地120石を与えられ、この地を治めていました。また、代々今井村の名主をつとめた清水家の墓もあります。

なお、現在の本堂は昭和45年(1970)に、鐘楼門は昭和62年(1987)に築造されたものです。

今井城址・城山稲荷（いまいじょうし・しろやまいなり）

室町時代初期に築城された典型的な山城です。石垣などを積み上げる築城法ではなく、自然の地の利を生かした城で、標高87mの尾根上に築城されました。

今井川が流れるこの丘陵南端の中腹には「城山稲荷」があり、地元ではこの稲荷社のある一帯を「城跡」と呼んでいます。

昭和30年(1955)10月に城山稲荷社近くから、埋蔵金が掘り出されました。大きなカメに古銭がぎっしり(約400kg)、古銭の種類は中国からの渡来銭が主で、これは鎌倉期から戦国期に使用された通貨であると言われています。

嘉元2年(1304)の板碑があり、これは県下で最古の部類に属するといわれてます。

「古道と緑豊かな公園と大学」

鎌倉古道、国大、常盤公園、和田地蔵を巡るコース

コース６　総距離 / 約 7.4km

1	相鉄星川駅	
		250m
2	富士瓦斯紡績工場跡（川辺町公園）	
		480m
3	旧県農事試験場跡（現・峯小学校）	
		590m
4	鎌倉古道（下ノ道）	
		850m
5	三ツ沢公園（陸上競技場）	
		670m
6	横浜市戦没者慰霊塔（三ツ沢公園内）	
		60m
7	豊顕寺市民の森	
		350m
8	豊顕寺	
		100m
9	三ツ沢せせらぎ緑道	
		510m
10	帷子稲荷	
		1,420m
11	横浜国立大学正門	
12	横浜国立大学名教自然碑	830m
13	横浜国立大学南門	
		410m
14	常盤公園	
		440m
15	和田稲荷	
		40m
16	真福寺	
		390m
17	和田地蔵	
		30m
18	相鉄和田町駅	

鎌倉古道（下ノ道）

鎌倉幕府が関東一円に散在する御家人衆に「いざ鎌倉」のとき、いち早く鎌倉に馳せ参じることができるよう、整備した道であるといいます。鎌倉を起点とし、北に向かって放射線状に延びた３本の道（上ノ道・中ノ道・下ノ道）が主な道です。

鎌倉古道のルートについては諸説ありますが、そのひとつに、金沢横丁から古町橋を渡り、宮田町の急坂を登り、三ツ沢公園・片倉町・菊名を経て千葉方面に通じる道が「下ノ道」であるといわれています。

三ツ沢公園

戦前、現公園の一画には護国神社がありました。戦後、神社外苑一帯は横浜市に譲渡され、市は周辺の民有地などを合わせて用地を確保し、昭和24年（1949）、運動公園として整備しました。

昭和30年（1955）に行われた第10回神奈川国体では本競技場がメイン会場となりました。

現在の公園面積は34.7haで、陸上競技場、サッカー場、野球場、テニスコート、体育館等が適宜配置され、さらに、広場や散策路なども整備され、都市基幹公園として市民に親しまれています。また、市内有数の桜の名所としても知られています。

横浜市戦没者慰霊塔

護国神社跡地に、第二次大戦の戦没者等の霊を安置するため、昭和28年（1953）、市民の協力を得て、横浜市によって建設されたものです。

慰霊塔は２基の塔と安置室からなり、塔は門をあらわし、左の塔は高さ18mで、上部の欠損は昭和20年（1945）の敗戦による挫折を表し、右の塔は高さ25mで、新生日本の進むべき姿を象徴しています。

豊顕寺

三河国多米村（現・豊橋市多米町）の郷士・多米元興が、永正12年（1515）1月、先祖供養のために建立した本顕寺が前身といわれています。その後、元興が小田原北条氏の家臣となって、この三ツ沢一帯を所領し、隠棲したのちの天文5年（1536）、郷里の本顕寺を当地に移して豊顕寺と改称しました。

元興の子・長宗が、青木城主となると、父の隠棲の地である三ツ沢の山荘全部（現･豊顕寺市民の森）を当寺に寄贈し、享保9年（1724）、ここに法華宗の檀林（僧の学問所）を開講しました。その規模は、学舎5棟、学寮25棟、学徒は常に300人を下らぬ盛況を極めたといいます。しかし、大正12年（1923）9月の関東大震災により建物のほとんどが倒壊し、檀林は廃絶しました。

帷子稲荷

江戸時代、現在の峰岡町･常盤台･鎌谷町･岡沢町･峰沢町一帯の丘陵は帷子の峯といわれていました。おそらく帷子稲荷の名称も「帷子の峯に祀られた稲荷社」から名付けられたものと思われます。

横浜国立大学名教自然碑

横浜国立大学の前身横浜高等工業学校の初代校長鈴木達治氏を讃えて、昭和12年（1937）同校の建築学科中村順平教授が設計しました。その後、昭和54年（1979）工学部の移転に伴い現在地に移されました。鈴木達治氏の教育理念は、学生の人格を尊重し、才能に応じて、その長所を発揮させる教育を主眼と

して、「無試験」「無採点」「無償罰」の三無主義を標榜し、その効果は著しく、当時の教育界に一種の異彩を発しました。

本碑は茨城県産の巨大な寒水石を用いた方尖型の石碑です。

常盤公園

明治大正の頃、この付近は岡野欣之助氏の広大な別荘地で、常盤園と呼ばれていました。市の人口が急増するに伴い公園不足が指摘されるようになると、岡野氏が巨額の資金を投じて自己所有の山林を整備し、大正３年（1914）常盤園（通称・岡野公園）として市民に開放しました。

現在の常盤公園は元の公園入口付近の一部（約６分の１）を昭和 17 年（1942）10 月、市が買収し開設した公園です。今も緑豊かなこの公園は、運動広場やテニスコート、弓道場など区民のスポーツと憩いの場として親しまれています。

和田稲荷

言い伝えによると、治承４年（1180）、源頼朝の家臣和田義盛は戦勝祈願のため、当地に祀られていた十一面観世音菩薩の礼拝に訪れました。そのとき、「稲荷の霊社を信心すれば、志は必ず成就する」との観世音菩薩のお告げがあり、義盛は早速、この地に稲荷社を建立しました。のちに人々は、この稲荷社を「和田稲荷」と呼ぶようになり、和田という地名の起こりにもなったと伝えられています。

真福寺

高野山真言宗に属し、関東三十六不動霊場の第４番札所。開創は明らかではありませんが、和田義盛の建立と伝えられています。その後、しばらく廃寺となっていましたが、元和元年（1615）、地元の豪族・田口兵衛重勝により再建されました。現在の本堂は昭和 20 年（1945）に戦災で焼失したあと、昭和 35 年（1960）に完成したものです。境内には横浜市の名木古木の指定を受けている樹齢 300 年以上のツバキと、樹齢 400 年以上のイチョウが見られます。

また、門前にある地蔵尊は和田町駅近くの山崎台にあった幻の寺、浅間宝寺跡に祀られていた「満願地蔵尊」です。明治初年（1868）、浅間宝寺跡が星川小学校の建設用地になったため、真福寺門前に移されました。この地蔵の体をなでると願いごとがかなうといわれています。

和田地蔵

地元では地蔵様と呼ばれていますが、実は「阿弥陀像の庚申塔」で、元禄２年（1689）の建立です。

和田町では昭和初期頃まで庚申講が盛んであったようです。今では、地元の守り神として崇められ、毎年８月 23 日、24 日のお祭りは、商店街あげて盛大に行われています。

＊富士瓦斯紡績工場跡、旧県農事試験場跡はコース８で紹介しています。

相鉄星川駅
1
法性寺
2
3 星川杉山神社
県立保土ケ谷公園
（かながわアートホール）
4
横浜新道
花見台交番
桜丘高
神奈川坂
5
岩崎中
初音が丘小
岩崎地域
ケアプラザ
6 元町ガード
元町橋 7
8
旧元町橋跡・帝釈天堂
今井川調整池公園 9
東海道本線・横須賀線
今井川
狩場町
第四歩道橋
狩場インターチェンジ
狩場緑風荘
横浜市
資源循環局
保土ケ谷工場
保土ケ谷プール
横浜市児童遊園地
10
横浜横須賀道路
英連邦
戦死者墓地
11
児童遊園地前
横浜市こども植物園 12
N
Z078BJ 第 041 号

「やすらぎをもとめて公園めぐり」

保土ケ谷公園から児童遊園地・英連邦戦死者墓地へのコース

コース７　総距離 / 約 5.9km

1	相鉄星川駅	
		230m
2	法性寺	
		340m
3	星川　杉山神社	
		660m
4	県立保土ケ谷公園（かながわアートホール）	
5	神奈川坂	1,590m
6	元町ガード	
		130m
7	元町橋	
		320m
8	旧元町橋跡・帝釈天堂	
		120m
9	今井川調整池公園	
		1,210m
10	横浜市児童遊園地	
		1,000m
11	英連邦戦死者墓地	
		300m
12	横浜市こども植物園	

＊お帰りは、バス停「児童遊園地前」か
「児童遊園地入口」から

法性寺（ほっしょうじ）

日蓮宗総本山身延山久遠寺の末寺。元和２年（1616）の創建で、開山は法性院日在、開基は芝生（しぼう）村の斎藤忠兵衛という人です。文政 13 年（1830）４月、第 25 世日義上人のとき、堂宇を再建し、現在の本堂の骨格、庫裏ができました。ただし、大正 12 年（1923）の関東大震災で大破したため、修復を加えて現在に至っています。なお、開山から 370 年・380 年・390 年の記念奉納事業を檀信徒の協力を得て、現在寺観一新されています。

本寺所蔵の平安時代末期から鎌倉時代初期に制作されたと考えられる経典『紺紙金字法華経』全八巻は平成８年に横浜市の指定文化財になりました。

なお、紺紙金字法華経とは、紺色に染めた料紙に金泥で経典を写したものです。

星川（ほしかわ）　杉山神社（すぎやまじんじゃ）

杉山神社は鶴見川、帷子川水系を中心とした地域に 39 社あります。

総本社は延喜式内の神社（式内社）で、承和 15 年（848）に従５位下の官位を授かりました。

星川郷杉山神社は江戸時代に出版された『江戸名所図会』にも描かれています。

県立保土ケ谷公園（けんりつほどがやこうえん）
（かながわアートホール）

戦時中、防空緑地でしたが、戦後は食糧難のため農地として使われていました。その後、朝鮮動乱に伴う米軍による接収と解除を経て、昭和 32 年（1957）に公園全体の整備計画が作成されました。現在は、スポーツ施設とやすらぎのある公園として県民に親しまれています。

運動施設は、野球、サッカー、ラグビー、テニス、プール、体育館など多岐にわたり、ピクニック広場、梅園、さらに文化的機能として「かながわアートホール」も平成４年にオープンしました。（公園面積 34ha）

神奈川坂（かながわざか）

古東海道（江戸時代初期の東海道）の保土ケ谷宿（元町）から神奈川宿方面へ向かう坂なので、「神奈川坂」と呼ばれていますが、その道筋は諸説あります。通説では元町ガードから花見台へ登る坂のことをいいます。しかし、『保土ケ谷区史』には、元町ガードから樹源寺裏手へ登る坂であろうと記載されています。

今井川調整池公園（いまいがわちょうせいいけこうえん）

今井川流域は急激な市街化が著しく、河道拡幅による治水対策は完成までに要する期間が長すぎるので、早期に効果を発揮する施設として、平成４年度から 15 年度にかけて、国道１号の下にトンネル式の地下調整池が建設されました。

地下調節池の効果（時間降雨量 50mm）は、調節

池が無い場合には、被害家屋 1800 戸、氾濫区域 38ha、被害額 82 億円と推定される被害を、0 に出来るということです。

調整池の規模は、内径 10.8m、延長 2,000m、容量 178,000m³ です。

横浜市児童遊園地

日本の近代学校制度制定 50 周年を記念して、横浜市と市内の小学校校長会によって大正 11 年（1922）に計画され、昭和 4 年（1929）10 月に開園した児童遊園地の大半は現在の英連邦戦死者墓地の場所にありました。

昭和 21 年（1946）に連合軍に接収され、遠い異国の地で倒れた英連邦戦死者の墓地となりました。昭和 27 年（1952）7 月 1 日に返還されましたが、墓地という特殊な状況から横浜市は国を経由して英連邦側に売却し、その代替として隣接地を買収し、今日の児童遊園地が整備されました。

14ha を超える敷地には豊かな自然が残り、四季を通して人々の心を和ませています。

英連邦戦死者墓地

横浜で外人墓地といえば山手を連想しますが、それに比べて知名度は高くはありませんが、広さ 13ha、世界 143 カ国に 2,500 箇所もある英連邦墓地の中で 3 番目の面積を有し、エリザベス女王、故ダイアナ妃、サッチャー元首相等、イギリスの要人が来日の際には墓参に訪れます。ここには主に太平洋戦争中に収容所や病院で捕虜として亡くなった英連邦各国（英国・カナダ・ニュージーランド・オーストラリアなど）の 1,853 柱の御魂が眠っていて、英連邦戦死者墓地管理委員会が管理しています。

戦後アメリカとオランダは遺骨を本国に持ち帰りましたが、英連邦では、その地に葬るのが慣例とのことです。

横浜市こども植物園

こどもたちが植物に触れ、自然に親しみながら植物への知識を深め、緑を育てる思いやりのある心を培ってもらうと共に、広く市民に対する緑化の普及教育活動を行う目的で、国際児童年にあたる昭和 54 年（1979）6 月 23 日に開園しました。

園内にはニュートンのリンゴの木、メンデルのブドウをはじめ珍しい植物や 92 品種もの柿の木なども集められています。

以前はここに、木原生物学研究所がありました。京都大学農学部の木原均教授（遺伝学）がカラコルム遠征で発見したタルホ小麦という小麦の祖先の遺伝的研究を行った農場でした。

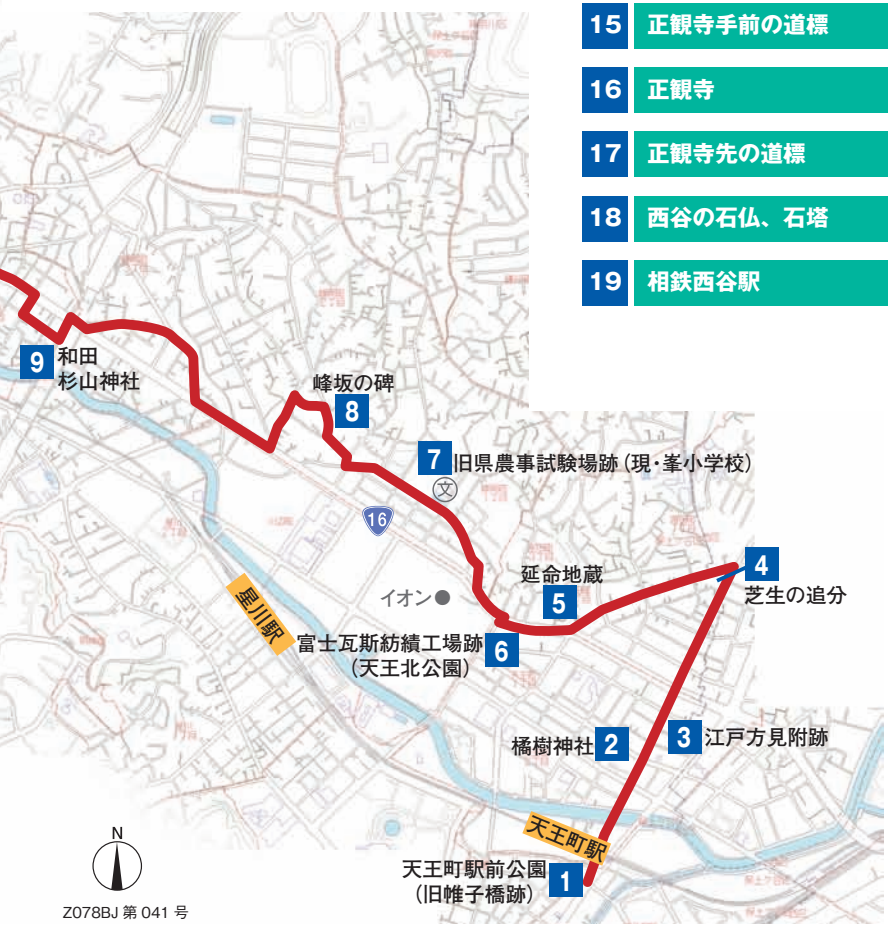
＊旧元町橋跡・帝釈天堂はコース 2 で紹介しています。

「歴史めぐり、絹のみちを歩く」

国道 16 号に沿って、八王子往還を巡るコース

コース 8　総距離 / 約 6.7km

1	天王町駅前公園(旧帷子橋跡)	
		230m
2	橘樹神社	
		130m
3	江戸方見附跡	
		380m
4	芝生の追分	
		370m
5	延命地蔵	
		200m
6	富士瓦斯紡績工場跡（天王北公園）	
		370m
7	旧県農事試験場跡（現・峯小学校）	
		310m
8	峰坂の碑	
		930m
9	和田 杉山神社	
		860m
10	和田村道橋改修碑	
		510m
11	上星川の石仏	
		140m
12	釜壇山	
		500m
13	東光寺	
		230m
14	上星川 杉山社	
		580m
15	正観寺手前の道標	
16	正観寺	
		640m
17	正観寺先の道標	
18	西谷の石仏、石塔	
		350m
19	相鉄西谷駅	



Z078BJ 第 041 号

芝生の追分

追分とは一般に二つの道の分岐点を意味します。江戸時代、ここは保土ケ谷宿と芝生村（現浅間町・浅間台）の境に位置し、西に向かって右手の道は帷子川に沿って延び、町田・八王子へと続く八王子往還でした。安政６年（1859）、横浜開港によって、輸出用の生糸が八王子方面から横浜へと運ばれるようになり、「絹の道」とも呼ばれました。

左手の道は慶安元年（1648）頃に整備された旧東海道です。

なお、洪福寺の前身である薬師堂が、江戸の初期頃まで、旧東海道の北側に連なる袖摺山の西端部のこの近くにあったといわれています。

延命地蔵

古東海道沿いにあるこの地蔵堂一帯には、中世の頃より埋葬所、あるいは投げ込み塚があったのではないかといわれ、境内からは文明 12 年（1480）刻銘の板碑が数個出土しています。

地蔵堂は旅の途中で亡くなった人々の霊を供養して建立されたものといわれています。

富士瓦斯紡績工場跡（現天王北公園）

保土ケ谷町帷子（現川辺町）に 17ha（51,000 坪）の土地を買収し、明治 41 年（1908）に工場が完成しました。最盛期の大正９年（1920）頃には、従業員が 6,000 人を超え、生産能力は世界一であったといわれています。

現在の天王町商店街は、当時、富士瓦斯紡績の門前町として栄え、伊勢佐木町に次ぐ横浜屈指の商店街として大変な賑わいでした。

しかし、戦時中は軍需工場となり、昭和 20 年（1945）４月の大空襲で工場はすべて焼失し、戦後は駐留軍に接収され、モータープールとなりました。

昭和 33 年（1958）８月に接収解除となりましたが、紡績工場は再建されず、その後、この広大な用地には、区役所をはじめとする公共施設、ショッピングセンター、高層住宅が建ち並び、公園が整備されるなど、区の中心地区として発展しています。

旧県農事試験場跡（現峯小学校）

明治 29 年（1896）橘樹郡保土ケ谷町岡野新田に開場された試験場は、同 41 年（1908）この地に移転しましたが、拡張した富士瓦斯紡績工場の煤煙で作物が影響を受けたことから、大正 10 年（1921）に鎌倉郡玉縄村（現鎌倉市）へ再度移転しました。

安政年間（1854 ～ 60）甲州（現山梨県）から持ち込まれたジャガイモの栽培研究が、ここで行われ、「保土ケ谷いも」と名付けられ質の良い種イモとして全国に知られていました。

峰坂之碑

『むかし、この道は八王子に通じた唯一の交通路

でした。年貢米や生糸を馬の背に往来し、旅人は榎の木に馬を繋ぎ休息したところです。昭和57年7月吉日　峰岡2丁目自治会』（峰坂の碑碑文より）
＊青面金剛庚申塔　寛保3年（1743）11月吉日　刻銘

和田（わだ）　杉山神社（すぎやまじんじゃ）

創祀年代は不詳。祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）。『新編武蔵風土記稿』和田村の条には「村の西よりにあり、当所の鎮守なり」とあり、明治に村社に指定されました。昭和39年（1964）、現在地に遷座されました。本殿右脇には天明3年（1783）銘の八王子・大山道の道標、青面金剛邪気・三猿彫の庚申塔が祀られています。

和田村道橋改修碑（わだむらみちはしかいしゅうひ）

釜台町にあり、江戸時代中期、八王子往還和田村地先（じさき）の難路を、江戸の住人桜井茂左衛門が資金を提供し、村民および隣村川島村民の協力を得て改修し、あわせて道筋に橋を架けて往来の難儀を救いました。本碑は、この工事の由来を記したものです。碑高は103cm、碑幅34.5cm、碑厚21cm。建立は元文2年（1737）11月。道筋改修の経緯を知る上で貴重な碑です。

上星川（かみほしかわ）の石仏（せきぶつ）

上星川2丁目17付近の国道沿いに双体道祖神と庚申塔があります。

道祖神は塞の神ともいいます。古来、境界を守る神として信仰されました。怨霊や疫病が入ってくると考えられていたので、それを阻止するための様々な祭がありました。この双体道祖神（明和2年・1765）は区内でもめずらしいものです。

庚申信仰は60日に一回巡る庚申の日に仏教では青面金剛、神道では猿田彦大神を祀って徹夜する行事です。江戸時代、この信仰は庶民の間に広まり、庚申塔・庚申堂が建てられました。この庚申塔（正徳4年・1714）は道標を兼ねています。

釜壇山（かまだんやま）

上星川に古くから伝わる伝説の地。言い伝えによると、源頼朝が富士の裾野に巻狩りしたとき、ここで休憩をとり、石を重ね、上の石にうがった丸い穴の中で茶を沸かしたといいます。現在その石は無く、置かれていた釜壇を残すのみとなっています。

古老によれば、この石を削って飲むと、風邪や咳に効くといわれ、治ればお礼に竹筒にお茶を入れて捧げる風習が終戦前まであったといいます。人々からは、「お釜だ様」の愛称で呼ばれています。

東光寺谷戸の水質の良い井戸水でたてたお茶のあまりの美味さに、頼朝は水神に感謝の意を込めて帷子川に向かって矢を放ち、その矢は坂本の蔵王高根神社の山に突き刺さり、そこから矢竹が生えたといわれ、「矢崎村」や「矢シ塚」の地名の起こりにもなっています。これは『新編武蔵風土記稿』にも記載されています。

東光寺（とうこうじ）

創建は正保元年（1644）です。しかし、開創から明治のなかばまではほとんど無住に近い状態で、たまに雲水が滞在したり、近隣の寺の隠居が住んだりしていました。

創建時の本堂は、昭和 30 年（1955）失火により全焼し、その後再建されました。また、関東大震災のとき富士瓦斯紡績保土ケ谷工場で多くの犠牲者が出て、その供養にあたりました。境内墓地にはそのときの供養碑があります。

「武南十二薬師霊場第 3 番札所」でもあり、寅年には御本尊が開帳されます。

上星川 杉山社（かみほしかわ すぎやましゃ）

創建年代は不詳ですが、史料によると当社は天保年間（1830 ～ 44）の少し前、武蔵国都筑郡上星川村に鎮座し、明治 6 年（1873）村社に指定されました。

なお、昭和 36 年（1961）には当社の祭神を分霊し西谷町に富士山神社を創建しました。

社殿は関東大震災で倒壊し、現社殿は大正 13 年（1924）の再建です。

正観寺手前の道標（しょうかんじ てまえ どうひょう）

正観寺手前の道端に、八王子往還、鎌倉道を示す舟形庚申塔があります。八王子往還のここの辺から川島町、市沢町、今井町、品濃町を経て鎌倉へと続く鎌倉古道の道標です。

正観寺（しょうかんじ）

開山は龍山遵朔大和尚（雲松院 11 世）、開基は中田藤左衛門（寛永 12 年・1635 没）、開創は寛永 2 年（1625）。

天正 18 年（1590）小田原北条氏が滅亡し、同年、北条家家臣であった矢上の城主中田加賀守が死去しました。その子藤左衛門が父の供養のために加賀守が守本尊としていた伝弘法大師作 1 寸 8 分の純金聖観世音菩薩立像を奉納し、正観寺を建立して菩提寺としました。

旧小机領三十三観音霊場の第 5 番札所となっています。本堂脇に開運弁財天のお洞があり、『白蛇の伝説』が残っており学問技芸の開運の神として信仰を集めています。

西谷の石仏・石塔（にしや せきぶつ せきとう）

西谷商店街の途中から左に入る旧八王子往還の脇に自然石の堅牢地神塔（寛政 13 年・1801）、奉納御宝前（寛政 8 年・1796）、庚申塔（文化 11 年・1814）があります。

＊天王町駅前公園（旧帷子橋跡）、橘樹神社、江戸方見附跡については、コース 1 で紹介しています。

ふるさとの名木古木

横浜市では、昭和48年から、古くから町の象徴として親しまれ、故事来歴などのある樹木を名木古木保存事業として指定登録しており、潤いのある市民生活の確保と、都市の美観風致を維持しています。

平成21年4月末現在で、「名木古木」として指定された樹木は、868本5集団となっています。保土ケ谷区内では、そのうち34本が登録されています。

名木古木は所有者の私有財産です。見に行く場合は、所有者のご迷惑にならないようにしましょう。また、公開されていない敷地内に名木古木がある場合は、原則公道から見るようにしましょう。

■ほどがや散策ガイドで紹介している名木古木一覧

目標	樹種	樹齢(年)	樹高(m)	マップ参照ページ
外川神社	ケヤキ	230	20	P10
福生寺	イチョウ	220	18	P15
川島町・杉山神社	イチョウ	150	22	P19
蔵王高根神社・薬師堂	ケヤキ	180	12	P20
子神社	イチョウ	140	18	P23
	シラカシ	120	15	
真福寺	イチョウ	420	15	P27
	ツバキ	320	4	
上星川・杉山社	イチョウ	370	25	P35

外川神社のケヤキ

上星川・杉山社のイチョウ

散策ガイド掲載　区内寺社一覧

【寺院】

香象院　p6
所在地：岩間町2－153

見光寺　p6
所在地：岩間町2－140

天徳院　p7
所在地：神戸町102

大蓮寺　p7
所在地：神戸町98

遍照寺　p7
所在地：月見台38－31

大仙寺　p8
所在地：霞台15－16

樹源寺　p12
所在地：保土ケ谷町3－172

安楽寺　p14
所在地：西久保町120

円福寺　p14
所在地：西久保町137

福聚寺　p14
所在地：岩井町56

福生寺　p17
所在地：上菅田町744

随流院　p22
所在地：川島町501

正福院　p25
所在地：仏向町399

金剛寺　p26
所在地：今井町108

真福寺　p30
所在地：和田2－8－3

法性寺　p33
所在地：星川2－8－18

東光寺　p39
所在地：上星川2－34－1

正観寺　p39
所在地：東川島町45－4

【神社】

橘樹神社　p 5
所在地：天王町1－8－12

神明社　p 6
所在地：神戸町107

外川神社　p 11
所在地：瀬戸ケ谷町194

久保町　**杉山社**　p 14
所在地：西久保町118

八幡社　p 14
所在地：瀬戸ケ谷町137

富士山神社　p 17
所在地：西谷町988

八幡神社　p 17
所在地：上菅田町728

蔵王高根神社　p 21
所在地：坂本町140

川島町　**杉山神社**　p 22
所在地：川島町896

仏向　**杉山社**　p 25
所在地：仏向町553－1

子神社　p 26
所在地：今井町167

星川　**杉山神社**　p 33
所在地：星川1－19－1

和田　**杉山神社**　p 38
所在地：和田1－10－4

上星川　**杉山社**　p 39
所在地：上星川2－12－10

●発　　行／横浜市保土ケ谷区地域協働課
〒 240-0001　横浜市保土ケ谷区川辺町 2 － 9
TEL. 045 － 334 － 6308　　FAX. 045 － 332 － 7409
●発 行 年／ 2004 年 3 月初版　2007 年 9 月改訂　2011 年 3 月増刷
●協　　力／ほどがやガイドボランティアの会　保土ケ谷区仏教会　市内寺社
●写真提供／ほどがやガイドボランティアの会（岩橋 靖雄、松本 昭宣）　市内寺社
野村不動産（株）　横浜市歴史博物館　神奈川県立歴史博物館　金子 寿彦　（敬称略）
●参考文献／保土ケ谷区史（平成 9 年 10 月　保土ケ谷区制 70 周年記念事業実行委員会発行）
横浜市指定・登録文化財（平成 13 年 3 月　横浜市教育委員会発行）